

デマンド交通を利用した「介護予防事業」の実証実験及び今後の予定について

令和3年度に引き続き、令和4年度において実施した介護予防事業「外出モチベーション向上による高齢者の健康長寿延伸の仕組みづくり」の実証実験について、デマンド交通を利用した事業であることから、事業概要と今後の予定について、福祉部高齢者支援課から報告いたします。

◆事業目的

令和3年度と同様に、家にとじこもりがちな高齢者や虚弱（フレイル）になりはじめている高齢者に対して、外出意欲を高める仕組みを創出し、外出してもらうことで、生活の中で（買物しながら・病院ついでになど）楽しく体を動かしてもらうことにより、フレイルを予防することは可能かを検証することが目的です。また、フレイル予防の効果によって、高齢者の幸福度と筋力アップ、そして、将来的には社会保障費の低減を目指すことについても、同様です。

◆事業概要

令和3年度においては入間市および埼玉医科大学、入間市宮寺の小林病院、株式会社アイシンなど、産学官の計11者による連携でしたが、令和4年度はこの11者に、イオンリテール㈱、アシックス商事㈱を加えた計13者の連携により、株式会社アイシンが運営するデマンド交通「チョイソコ」を活用した実証実験を行いました。

実証実験の概要は、令和4年10月から令和5年1月までの期間に、宮寺・二本木地区にお住いの、要介護認定が要支援1または2で自立歩行の可能な方などで、63名（昨年度は57名）を対象に実施しました。

高齢者の外出意欲を高める仕組みの例として、イオンスタイル入間にご協力いただき、歩行困難な方でも楽に買物ができる「楽々カート」設置や、外出先で歩いた歩数をポイント化し、ポイント数に応じていちご狩りなどのイベントに参加できるなど、楽しく外出す

る機会を創出し、参加した対象者の健康増進効果を検証しました。

今年度の医学的な効果検証は、現在、埼玉医科大学等が分析中ですが、昨年度の実証実験の結果としては、積極的に参加した方（実施期間中10回以上外出した方）の80%に医学的数値の改善が見られたことから、「外出による健康促進の効果」が確認できました。

◆今後の予定

- (1) 令和3年度の“実証実験”で「要支援1または2などの高齢者が外出することにより健康増進効果が得られる」との結果が得られた（令和4年度は結果の分析中）ことを踏まえ、令和5年度については、宮寺・二本木地区にお住まいの高齢者を対象に、外出意欲を高める仕組みを創出し、外出意欲の向上により外出してもらうことで、健康増進効果を図ることを目的として、デマンド交通を移動手段として活用する“実証運行”を実施したいと考えています。
- (2) 運賃について、“実証実験”では無料としていましたが、“実証運行”においては、実施地域がていーろーど・ていーワゴンの運行地域であることや、将来的な本格運行（実装化）を考慮し、有料（金額については検討中）で運行したいと考えています。
- (3) “実証運行”を有料で実施するためには、道路運送法第21条に基づく許可申請が必要になるため、事業の詳細がまとまりましたら、地域公共交通協議会の皆様にお諮りしたいと思っております。
- (4) “実証運行”中は、利用対象者と目的が異なることから、コミュニティバス（ていーろーど・ていーワゴン）も同時に運行しておりますが、本格運行（実装化）に向けては都市計画課と連携しながら、公共交通とのあり方を含めた方向性を検討していきたいと考えております。